



チームロゴ入りマスクの 売上金を寄付

ライオンメール青森FC 選手らが青森県支部を訪問

12月8日、JFL(日本フットボールリーグ)所属のライオンメール青森FC(フットボールクラブ)の神山竜一選手(GK)と石澤善己選手(DF)、中田仁司チームダイレクター、今井俊之介フロントスタッフが、寄付金贈呈のために青森県支部を訪れ



目録を手渡し、神山選手(中)と石澤選手(右)

ました。

この寄付金は、同FCの運営会社である株式会社ライオンメール青森フットボールクラブが、昨シーズン9月から11月の期間、ホームゲームやイベントで販売した「チームロゴ入りマスク」の売上金の一部です。「少しでも世の中のために役立ててほしい」と神山選手と石澤選手から目録が手渡され、青森県支部の近藤宏事務局長が「災害救護体制の強化をはじめとした『人びとのいのちと健康を守る』赤十字活動に大切に使用させていただきます」とお礼のことばを述べました。

同FCでは、このほか、ホームゲームに合わせて献血バスを会場に誘致し、ゲームを観戦しに来たサポーターやスタッフに献血への協力の呼びかけを行うほか、選手自身も献血に協力するなどボランティア活動に積極的に取り組んでいます。

* GK II ゴールキーパー、DF II ディフェンダー

赤十字を支えるあなたの“ちから”

会員加入・活動資金にご協力をお願いします

昨年度、多くの県民の皆様は赤十字活動にご賛同・ご支援をいただき、総額1億8116万2千円の赤十字活動資金(会費・寄付金)が寄せられました。

お寄せいただきました活動資金のうち、1億2629万8千円を主に苦しんでいる人びとを救うための費用として使用しました。その内訳は、国内外における救護活動として5520万6千円(国内外の災害や紛争被災者の支援など)、ボランティアや青少年の育成として5533万7千円(地域活動やマンパワーの育成)、救急法などの普及として1575万5千円(保健医療や安全な暮らしのためなど)です。

これまでの県民の皆様からのあたたかいお気持ちに深く感謝申し上げます。さて、新型コロナウイルス感染症は、国内はもとより世界的に深刻な問題となっています。日本赤十字社では、新型コロナウイルス感染症の発生初期から、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への医療チームの派遣などから始まり、現在も赤十字病院での患者の受け入れ、感染への不安が偏見や差別につながらないための情報発信などに全力を尽くしています。

感染症の流行という難しい状況のなかにおいても、被災者に寄り添った支援を行いました。

皆様ご承知のことと思いますが、日本赤十字社では、これら災害や感染症で失われるいのちを守り、その苦痛を限りなく軽減するための活動のほか、平時からの地域や教育現場における防災・減災の知識・技術の普及強化や行政などと連携した地域での講習普及など、地域のレジリエンス(回復力)の強化に取り組んでいます。

青森県支部では、これら赤十字活動のことを、もっと多くの県民の皆様を知っていただくよう努力し、ここから賛同を得られるよう、今年も2月1日より「令和3年度赤十字会員増強・活動資金増収運動」を実施します。県民の皆様からのあたたかいご支援を心よりお待ちしております。

会員増強・活動資金増収運動に関するお問い合わせは、組織振興課係員係まで



赤十字活動資金にご協力をお願いします。



救いを託されている

その手は、あなたの手だ。そのまなざしは、あなたのまなざしだ。そのぬくもりは、あなたのぬくもりだ。支えあうあなたの、手となり、目となり、ぬくもりとなり、私たちは、そこに行く。医師が、看護師が、ボランティアが、そこで活動する。私たちは、あなたの支えで動いている。そう、支えあうあなたの赤十字の仲間です。

活動資金の募集や活動に関するお問合せは

Red Cross Aomori Branch contact information and logo.

令和3年度赤十字会員増強・活動資金増収運動実施中!

赤十字を支えるあなたの“ちから” 赤十字会員の加入、活動資金(会費・寄付金)のご協力をお願いいたします。

コロナ禍でもしっかり準備!

～木浪学園赤十字ボランティアが研修会を開催～

10月30日、学校法人木浪学園が運営する青森県ビューティ&メディカル専門学校(木浪賢治校長)の学生で構成された、木浪学園赤十字ボランティア(工藤さくら委員長)のメンバーら約40人が校内で研修会を開催しました。



お揃いのベストを身に着け、研修会に参加するメンバーら

同研修会は、災害時における非常食の炊き出し訓練、大切な命を守るための心肺蘇生法やAEDを用いた除細動などについて学ぶ機会として、毎年開催されていますが、本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、感染防止策を講じての開催となりました。

参加したメンバーらは感染防止のためのフェイスシールドを身につけ、はじめに青森県支部職員から沸騰したお湯でご飯が炊ける目盛りがついた専用のビニール袋(炊飯袋)について説明を受けると、真剣な表情で袋にお米と水を詰める作業を行いました。

その後、ご飯が炊き上がるまでの時間を利用して、青森県支部職員から心肺蘇生などの一次救命処置の実技講習会と青森県赤十字血液センター職員から献血についての講話が行われました。

研修会に参加したメンバーらは、緊急時における対処方法と献血の大切さについて理解を深め、改めて命の尊さを感じていました。

WEBで初の国際交流集会を開催

～青森県支部からも高校生メンバーらが参加～

日本赤十字社の青少年赤十字事業では、広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養うため「国際理解・親善」を実践目標として掲げています。

日本の青少年赤十字高校生メンバーとアジア・太平洋州姉妹社のコースが参加する国際交流は、国際理解・親善を深める事業として近年は隔年で開催され、今年度で50年目となります。

11月15日、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、史上初めてとなるWEBを活用した交流となりましたが、日本と17の姉妹社から500人以上が参加し、青森県支部からは、青森山田高等学校(花田惇校長)インターアクトクラブ・青少年赤十字部のメンバー10人と県内の青少年赤十字指導者3人が参加しました。

プログラムでは、各都道府県や各国の文化の紹介、青少年赤十字の活動紹介、赤十字O×クイズなどが行われました。また、世界的に感染拡大が続いている新型コロナウイルス感染症について、ガイド「3つの顔」教材をもとに、「どのように向き合うのか」「それに付随する偏見や差別をなくすためにはどのようにしたらよいか」など活発な意見交換が行われ、今後の活動について考えました。

青森県支部の参加者からは「情報を共有することで、コロナを取り巻く日本と世界の共通点や相違点を知ることができた」「オンラインではあったが、赤十字のネットワークを通じて世界の視点を持つことができた」という感想が寄せられました。



WEBで海外メンバーと交流する青森県支部のメンバーら



県社会福祉協議会がバスツアーを開催

～中学生が青森県支部を訪問～

11月7日、「中学生対象ふくしの魅力発見バスツアー」(社会福祉法人青森県社会福祉協議会、青森県福祉人材センター主催)が開催され、青森市内の中学生ら11人が見学施設である青森県支部を訪れました。

今回のバスツアーは、「福祉の仕事を知りたい」「将来、福祉の仕事をしてみたい」という中学生を対象に、福祉・介護の現場ならびに社会見学などのプログラムを通じて、仕事に対する理解促進とイメージアップを図ることを目的に開催されました。

青森県支部を訪れた中学生らは、職員から赤十字の成り立ちや災害時における救護活動のほか、ボランティア活動などについて学び、赤十字について理解を深めました。その後、資料展示室や救護物資が保管されている救護倉庫などを見学しました。

参加者から「人間を救うのは、人間だという言葉が心に残った」「赤十字がどのように誕生したのか知ることができた」などの感想が寄せられました。

NHK海外たすけあいキャンペーンを実施

～県内で44万8千円の募金～

NHK海外たすけあいは、世界各国で支援を必要としている人びとのために、日本赤十字社と日本放送協会(NHK)が協力して、毎年12月に行う募金キャンペーンです。

1983年(昭和58年)のアフリカ干ばつ被害への援助を皮切りに、これまでに世界159の国と地域に総額265億円以上の支援を続けています。

世界には、紛争により故郷を離れなければならない人、自然災害で被災した人、日本では簡単に治るような病気に悩まされる人など、支援を必要としている人びとが今なお数多くいます。

日本赤十字社では、災害後の救援だけでなく、人びとの関心が集まりにくい国や地域で、「いのちと健康、尊厳を守る」ための人道支援を継続するため、昨年12月1日から25日までの期間、同キャンペーンを実施しました。

同キャンペーン期間中、青森県支部には、総額448,355円(134件)の募金が寄せられました。県民の皆様からの温かなご支援に感謝いたします。

救いを託されている。

NHK海外たすけあい 12.1(土)～25(日)

“知る、見る”赤十字

一命のために今うごく「ACTION!防災・減災」をはじめます。



東日本大震災から、令和3年3月で10年を迎えます。

災害からいのちを守り、暮らしをつなぐためには、災害が起こってからでは遅く、事前の備えが重要です。

しかし、災害は毎年のようにこの国を襲い、備えの不足が大きな被害をもたらしています。さらに、新型コロナウイルス禍では、感染症への備えも必要となっています。

一人ひとりが、それぞれの家族が、地域が、災害に備える行動を、今おこなってほしい。そのような想いから、日本赤十字社は、皆様と共に、災害に備えるための活動「ACTION!防災・減災」をはじめます。

ぜひ、皆様のご協力をお願いします。

【期間】令和3年3月1日(月)～3月31日(水)
【特設WEBサイト】<http://campaign.jrc.or.jp/bousai/>
2/15(月)特設サイトを公開予定

赤十字ネットワークニュース

現在受付中の国内自然災害義援金

現在受付中の国内自然災害義援金と受付期間は以下のとおりです。

- 令和2年7月豪雨災害義援金 令和3年3月31日まで
- 令和元年台風第19号災害義援金 令和3年3月31日まで
- 平成30年7月豪雨災害義援金 令和3年6月30日まで
- 東日本大震災義援金 令和3年3月31日まで
- 平成28年熊本地震災害義援金(対象：熊本県) 令和3年3月31日まで
- 平成29年7月5日からの大雨災害義援金 令和3年3月31日まで

新型コロナウイルス感染防止に伴う赤十字のアクション

日本赤十字社では、「人のいのちと健康を守る」という使命のもと、全国の赤十字施設を挙げて以下の取り組みを行っています。

新型コロナウイルス問題への対応

救護班の派遣
(クルーズ船、施設等)

感染予防啓発活動
(動画配信・パンフレット)

患者の受入
(感染症指定医療機関等として)

深刻な血液不足への対応

感染防止のための社内の取り組み

リモートワークの導入

消毒等衛生管理の徹底

WEB会議の積極活用

講習会・密接環境でのボランティア活動の延期や中止

医療機関(赤十字病院)及び血液事業(献血)等は、通常どおり運営しています。
※ただし、施設によっては外来診療等を停止している場合があります。

私たちが直面している新型コロナウイルスへの取り組みをはじめ、台風や地震などの災害に備える赤十字の活動は、皆さまからの会費やご寄付で成り立っています。赤十字の活動資金にご協力ください。

詳しい活動については

献血は“16～69歳まで可能です!”

※65～69歳までの方は、60～64歳の間に献血経験のある方に限ります

献血ルーム ■全血献血/9:30～12:30、13:45～17:00
受付時間 ■成分献血/9:30～11:50、13:45～16:20

- 青森献血ルーム ☎ 0120-649-489 青森市長島1丁目3番1号 日赤ビル4階
- 弘前献血ルーム「CoCoSA(ココサ)」 ☎ 0120-768-489 弘前市駅前町8-1 大町タウンビル2階
- 青森県赤十字血液センターホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/th/aomori/index.html>

